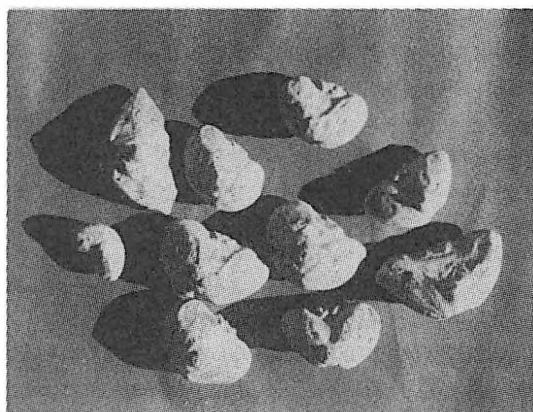


トゲのない中国産のヒシ

齊藤吉永



中国・杭州にて、1986. 10. 10 入手

中国通の友人K氏が本年も3ヶ月余り中国を廻って帰国した。

土産話の中で露天の店で売っていたという紅菱 *Trapa bicornis* Osbeck の美しさを強調していたが、後日その折りの写真を届けてくれて私も始めてその紅色の美しさに驚嘆した。

それにも増して土産として持ち帰ったというトゲのないヒシを差し出されて、すでに話しにはきいていたものの一層の驚きを禁じ得なかった。

早速書架の中国の図鑑類(中国高等植物図鑑、中国水生維管束植物図譜、中国水生高等植物図説)を挙げたが、これ等にはどこにも記載されてはいなかった。

種名は判らないが杭州附近に多らしく、ゆでて露天で売っていたものだという。

形は小さきままでどれが標準の大きさなのかも判然としないが将来所定の手続きを経て生品を入手し栽培して生態等を確かめたいものと思っている。

この正体を御存知の方の御教示を乞うものである。

(1986. 11. 16)

〔付記〕ここで紹介されている棘のないヒシの正体は、ツノナシビシ *Trapa acornis* Nakano と思われる。中国の一部地域に見られるようで、日本及び近隣地域のヒシ属を研究された中野治房博士によって新種として記載されたものである。その論文から、ツノナシビシに関する部分の一部を訳出しておく。

“……私は、中国上海に近い嘉興南湖産の角のない特異なヒシの実をいくつか入手した。それらは大きく平たいものであった。同年(1944年)に行なった栽培実験の結果、この実の角を欠く性質は遺伝するものであることが明らかになった。葉や花の諸特徴は、むしろヒシやオニビシに似ていた。その実だけがたいへん特異なわけで、4つのがく片は全て早くに脱落し、角はできなかった。私はこの点を強調し、それを新種 *Trapa acornis* とすることを提案したい。栽培実験で採れた実は、親のものよりもはるかに小型であったので、サイズの変異は自然界でもおこるのかもしれない。しかし、角が欠けるといのは固有の性質である。”(Bot. Mag. Tokyo 77 (1964), p162~)。

(角野康郎)

奈良市水上池にサンショウモ

磯部亮一

今年〔1986年〕10月12日、奈良市在住の西村保子さんの案内で、奈良盆地北部の古い溜池や古墳の濠など、水草相について概観したので報告しておく。

大和郡山付近は、金魚の産地として全国的に有名なところで、溜池の多い地域である。20個程の溜池を見てまわったが、2~3の池でオニビシ・ヒシ・ホテイアオイを観察したぐらいで、注目すべき水草類の生育する池はほとんど見られない。

北上して郡山城跡の濠、薬師寺西の大池、垂仁天皇陵の濠など、住宅周辺の池は富栄養化が進行して、アオコ〔*Microcystis*〕が水面に多く見られた。

平城京跡の北東に位置する、ヒシアゲ古墳現仁徳皇后磐之媛命陵の外濠〔前方部だけを囲むコの字形〕の水域には、コウホネ・ジュンサイ・ヒシ・カキツバタの見事な群落が見られた。そのほかこの水域には、沈水性で水上に白花を観察したが遠くで種名の確認は出来なかった。岸边には、湿生植物のスイランなども見られた。

ヒシアゲ古墳の南方に隣接している水上池には、オニビシ・ハスの群生、岸边にはマコモ、水生シダ植物のサンショウモ・アカウキクサ、浮水性のコケであるカズノウキゴケの群落が見られた。

サンショウモは、筆者の住んでいる知多半島でも1957年頃、脇田晴美氏によって調査報告がなされているが、